

兼城中学校 第 1 回学校運営協議会 報告書

- 1 開催日時 令和 4 年 5 月 1 3 日 (金) 1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 3 0
- 2 場 所 兼城中学校会議室
- 3 参 加 者 山内竜二、大城常明、大城むつみ、大城ひかる、長嶺安浩
柳井倉人、熱田康、仲村貢
- 4 会議内容 (1) 講演会への参加
(2) 講演会を受講しての質疑・応答
(3) 互いの自己紹介、役員認証および会長選出
(4) 校長挨拶
- 5 熟議内容 (1) 前回の熟議の報告
組織体制及び次年度評議員の選出について(R 3 最後の協議会にて)

(2) 今回の熟議のテーマ
※市内合同運営協議会として先進校による講話を聴いた。

(3) 話し合った内容
・互いの自己紹介、委員認証式、会長選出 等
- 6 次回予定 令和 4 年 8 月 4 日 (木) 1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

兼城中学校 第 2 回学校運営協議会 報告書

- 1 開催日時 令和 4 年 8 月 4 日 (木) 15 : 30 ~ 17 : 00
- 2 場 所 兼城中学校会議室
- 3 参加者 山内竜二、大城讓、長嶺安浩、大城常明、大城むつみ、大城ひかる、上原達彦、柳井倉人、熱田康、
- 4 会議内容 (1) 第 1 回学校評価アンケートからの考察
(2) 熟議・「協議会の各部会設置について」
(3) 校長あいさつ
- 5 熟議内容 (1) 前回の熟議の報告
※第 1 回は熟議は行っていない

(2) 今回の熟議のテーマ
「協議会の各部会設置について」

(3) 話し合った内容
 - ・学校評価から見えてきた生徒像および教師評価とのズレについて。
 - ・タブレットのハード面での課題は何か。
 - ・各部会設置におけるPTA役員との顔合わせについて検討。PTAとの連携は必須である。
 - ・できる活動とそれに付随する部会から動き始める。最初から大きなことは目指さず、今後も維持・継続できる取り組みから始める。
 - ・「マチコミ」を活用し、今後はデジタル化で連絡を取り合ったり、資料の送付を行う。
- 6 次回予定 令和 4 年 10 月 20 日 (木) 18 : 30 ~ 19 : 30

兼城中学校 第 3 回学校運営協議会 報告書

- 1 開催日時 令和 4 年 1 0 月 2 0 日 (木) 1 8 : 3 0 ~ 1 9 : 3 0
- 2 場 所 兼城中学校会議室
- 3 参 加 者 山内竜二、大城讓次、大城讓、長嶺安浩、大城常明、大城ひかる、柳井倉人、熱田康、仲村貢
- 4 会議内容 (1) 第 1 回学校評価の課題への対応について
(2) 熟議・「協議会の組織体制・活動内容について」
(3) 熟議・「校則改定について」
(4) 校長あいさつ
- 5 熟議内容 (1) 前回の熟議の報告および、その後への対応等の確認

(2) 今回の熟議のテーマ
「協議会の組織体制・活動内容について」
「校則改定について」

(3) 確認および話し合った内容
 - ・学校評価課題であった生徒の自尊感情や自己肯定感、自立心を高めるために、学校での活動（授業・行事・部活等）が生徒主体的に取り組む内容に変わりつつある。
 - ・組織体制はきちんと固定するのではなく、現状に応じて変化していくことも視野に入れて活動していく必要がある。
 - ・一小一中の特徴を活かして、将来的には小中併せた一つの協議会にしていても良い。
 - ・校則改定に関する「新しい指導提要」のリーフレットを全協議員に配布してもらいたい。
 - ・その他で、「マチコミ」を活用し、今後はデジタル化で連絡を取り合ったり、資料の送付を行うことを再度確認した。。
- 6 次回予定 令和 4 年 1 2 月 1 5 日 (木) 1 8 : 3 0 ~ 1 9 : 3 0

兼城中学校 第 4 回学校運営協議会 報告書

- 1 開催日時 令和 4 年 1 2 月 1 5 日 (木) 1 8 : 3 0 ~ 1 9 : 4 5
- 2 場 所 兼城中学校会議室
- 3 参 加 者 山内竜二、大城讓次、大城讓、長嶺安浩、大城常明、大城ひかる、金城信夫、早川洋平、大城むつみ、上原達彦、柳井倉人、熱田康、仲村貢
- 4 会議内容 (1) 熟議・「次年度の学校運営基本方針について」
(2) 熟議・「協議会各部会の今後の活動等について」
(3) 「校則改定」「マチコミ活用」「次回学校運営協議会」について
(4) 校長あいさつ
- 5 熟議内容 (1) 前回の熟議の報告および、その後への対応等の確認

(2) 今回の熟議のテーマ
「次年度の学校運営基本方針について」
「協議会各部会の今後の活動等について」

(3) 確認および話し合った内容
 - ・運営方針で大きく変更した点は無く、より見やすく理解しやすいように整理し直した。小項目は次年度開始後も挿入や訂正が行われる可能性を残している。
 - ・指導の重点「自立」で、今年度具体的に取り組んだことは修学旅行の服装規定や校則改定、生徒会による独自行事等、生徒自身による自己決定の場を意識して与えた。
 - ・今後は外部講師を活用した授業を推進するとともに、外部講師への呼びかけや授業依頼においては学校運営協議会メンバーが声がけしていく。
 - ・兼城地区体協の活動に生徒を取り込んでいく等、今後の地域への部活動移行に備えていきたい。また体協の活動で学校施設を使用するので学校側で押さえてもらいたい。
- 6 次回予定 令和 5 年 1 月 1 3 日 (金) 1 1 : 4 0 ~ 1 2 : 4 0

兼城中学校 第 5 回学校運営協議会 報告書

- 1 開催日時 令和 5 年 1 月 13 日（金） 11：40～12：40
- 2 場 所 兼城中学校会議室
- 3 参加者 山内竜二、大城讓次、大城常明、大城ひかる、大城むつみ、柳井倉人、
熱田康
※協議員は協議会前に授業参観・協議後に教室で生徒と一緒に給食を食べた。
- 4 会議内容 (1) 熟議・「学校評価から見える課題への対応について」
(2) 熟議・「学校課題に即した次年度協議員の人選について」
(3) 「校則改定」「第 6 回学校運営協議会」について
(4) 校長あいさつ
- 5 熟議内容 (1) 前回の熟議の報告および、その後への対応等の確認

(2) 今回の熟議のテーマ
「学校評価から見える課題への対応について」
「学校課題に即した次年度協議員の人選について」

(3) 確認および話し合った内容
◎学校評価アンケートの項目は経験経過を見比べる必要性はあるが、学校の実状に応じて毎年見直しを行ってもよいのでは。
◎生徒と教師の意識の乖離がみられる項目も多いので、学校評価アンケートの設問は生徒から意見を募って、生徒側の実態がより見えるよう工夫しても良い。
◎SNS問題は家庭の意識を高めることが一番大事ではあるが、学校においてのも対処的な指導のみならず、課題解決に向けた積極的な指導や生徒間で本音を言い合える関係性を築けるような自己開示の場を設定するなど工夫していく。また、学校のみならず地域においても子どもたちどうして自己開示ができるイベントや場作りを、協議員から声をかけて進めていく。
◎校則改定など、生徒自身で自ら考え・判断し・決定する場の設定を今後も継続していく。
- 6 次回予定 令和 5 年 2 月 16 日（木） 18：30～19：30

兼城中学校 第 6 回学校運営協議会 報告書

- 1 開催日時 令和 5 年 2 月 1 6 日 (木) 1 8 : 3 0 ~ 1 9 : 3 0
- 2 場 所 兼城中学校会議室
- 3 参加者 大城讓、早川洋平、長嶺安浩、大城常明、上原達彦、柳井倉人、熱田康
- 4 会議内容
 - (1) 熟議・「学校評価報告書の評価・改善等について」
 - (2) 熟議・「次年度の協議会の活動計画について」
 - (3) 校則改定後の生徒の様子について
 - (4) 次年度協議員メンバーについて
 - (5) 卒業式について
 - (6) 校長あいさつ
- 5 熟議内容
 - (1) 「学校評価報告書の評価・改善等について」
 - (2) 熟議・「次年度の協議会の活動計画について」
 - (3) 確認および話し合った内容
 - ◎タブレットの活用を推進するために、今後は家庭での使用ルールなどの一義的な指導責任を家庭に戻していきたい。学校や市教委側で制限をかけるように保護者が依頼している間は活用が進まない。
 - ◎学校での進路学習で子どもの進学に対する意識が変わった。次年度は進路・進学指導・学習の時間を増やすことも検討してもらいたい。
 - ◎地域の社会人を招いての職業人講話をコロナ以前のように行ってみてはどうか。その際の人材発掘や派遣依頼等は学校運営協議会が行う。
 - ◎年間を通して地域コーディネーターを活用してもらいたい。また、年間計画の中で地域コーディネーターが必要な学習・行事を見える化してもらえると協力の予定が組みやすいので検討してもらいたい。
- 6 次回予定 令和 4 年度は今回の協議会をもって終了。次回は次年度になる。

令和 4 年度 兼城中学校 学校運営協議会 報告書

- 1 開催日
第 1 回 令和 4 年 5 月 1 3 日 (金)
第 2 回 令和 4 年 8 月 4 日 (木)
第 3 回 令和 4 年 1 0 月 2 0 日 (木)
第 4 回 令和 4 年 1 2 月 1 5 日 (木)
第 5 回 令和 5 年 1 月 1 3 日 (金) ※糸満市教育の日
第 6 回 令和 5 年 2 月 1 6 日 (木)

- 2 今年度、熟議した内容
 - (1) 「協議会の各部会設置について」(第 2 回)
 - (2) 「協議会の組織体制・活動内容について」「校則改定について」(第 3 回)
 - (3) 「次年度の学校運営基本方針について」「各部会の今後の活動について」(第 4 回)
 - (4) 「学校評価から見える課題への対応について」「次年度の人選について」(第 5 回)
 - (5) 「学校評価報告書について」「次年度活動計画(案)について」(第 6 回)

- 3 熟議後の変容
 - (1) 各部会の役割や部長の決定等、組織として具体的な形ができてきた。
 - (2) 学校運営協議会と校長の理念を共通理解することで、校則改定がスムーズにいった。
 - (3) 校長の学校運営方針を理解してもらったことで、より深い熟議ができるようになった。
 - (4) 今後の運営協議員選出について、会長を中心に取り決めしてもらえるようになった。

- 4 地域学校協働本部との協働活動について

※組織体制が固まりつつあるものの、今年度もコロナ禍の影響が多くあり、具体的な活動は行えなかった。

- 5 今年度の成果
 - (1) 学校職員以外の学校運営協議会メンバーに、主体的に運営に関わってもらえるようになった。
 - (2) 学校運営協議会メンバーを授業参観や給食に招くことで、教職員・生徒への認知が広がった。
 - (3) 次年度からは具体的に「地域学校協働本部」で活動をに組み始める道筋がついた。

- 6 今年度の課題及び改善策
 - (1) 地域と協働した活動を行えなかったため、次年度取り組めるよう調整中である。
 - (2) 学校の実情を理解してもらうために、学校運営協議員を含めた地域人材が学校訪問(授業公開・各種行事等)する機会を増やす。
 - (3) 1 小 1 中の特性を生かすため、兼城小運営協議会との連携を模索中である。